

校区検討ワークショップの進め方について

1. 第2回以降の校区検討ワークショップの進め方

①基本となる校区調整の考え方の再確認

○長期にわたって安定的な校区とすることを目指す

- ・小学校から半径1km圏内を目安に校区を設定する
- ・学校敷地面積/校区面積（学校の過密さ加減）をできるだけ均等に
する

○短期的なメリット・デメリットに左右されない議論ができるよう、見直し後の校区への移行期間や経過措置を十分に設定する

②その他の条件整理

校区を考える上で、①以外にどのようなことを条件とすることが望ましいか整理する。「現行の校区のあり方」に縛られず、幅広い意見を拾い上げることが目的であるため、学校敷地面積/校区面積をほぼ同じ値にした例など、校区案をできるだけ多く提示し、ディスカッションすることを想定。20人程度のグループに分けて行う予定。

③具体的な校区割の検討

①の考え方と②の条件整理の結果をもとに、事務局で実際の校区割案を作成。地域別にグループを分けるなどしてご議論いただき、校区割案の修正を重ねていく。また、実際にまちに出て通学路をしてみるなどの現地調査を織り交ぜていくことも想定。

※なお校区割案は、当面の間、新設校を「小中一貫校にした場合」と「小学校のみにした場合」を両方提示し、いただいたご意見等を総合的に検討した上で、新設校を小中一貫校にするかどうかを決定する。

2. 次回ワークショップの開催時期について

平成30年5～6月（予定）

以上